

2017 年度共愛学園高等学校入学試験について

【入試形態】「推薦入試」、「学業特別奨学生入試」、「一般入試」

「推薦入試」は「作文と面接」となっています。(英検推薦は面接のみ)

「学業特別奨学生入試」は5教科の筆記試験のみ。ただし、帰国生は国、数、英3教科と面接。

「一般入試」は5教科の筆記試験と面接。ただし、帰国生は国、数、英3教科と面接となります。

試験は英語科も普通科も英語のリスニングを含む共通の入試ですが、英語については一部普通科と英語科では異なる問題が含まれています。試験時間は英語のみ50分で初めの約10分間がリスニング試験、残り40分が筆記試験となっています。他の4教科は45分間の試験となります。

*詳細は、必ず2017年度生徒募集要項でご確認ください。

【各入試科目の出題範囲・内容】

【作文】

〔推薦入試〕 400字以上600字以内(句読点も1字とする)。題は試験当日に出題される。

【面接】

英検推薦、帰国生入試は、個人面接。それ以外は集団面接。

【国語】

〔学特入試〕 現代文分野大問2(評論的問題、小説的問題)8割

国語常識問題(古典分野を含む) 2割

〔一般入試〕 学特入試と同じになります

ポイント

- ・現代文は評論・評論的な問題と小説か随筆。
漢字書き取り、読み、語句の意味、四字熟語など
評論や評論的な文章では、読解力の基礎を確かめるための指示語・接続詞・言い換えの表現などを問いながら、著者の主張に迫る設問へと続く。
小説では言動、情景描写などから、登場人物の心理をつかむ設問、主人公の心情をつかむことによって、その場面の主題をつかむ設問へと続く。
- ・国語常識問題は古典分野(古文・漢文)を含む基本的な設問が出題される。文学史的な設問(作品名・作者・成立時代など)、文法、慣用句なども勉強しておくとい良いでしょう。

【数学】

〔学特入試〕、〔一般入試〕とも傾向は同じです。

昨年度と同じく、学特・一般ともに最初の計算問題を40%とします。できるだけ最初の計算問題でのミスをしないように注意しましょう。また、2番以降の問題ではすべての範囲から出題します。

具体的には、主に

「方程式」、「関数」、「図形」、「確率」の分野からの出題となります。

ただし、中学3年で学習する「三平方の定理」、「円」、「標本調査」は出題しません。

問題量が多いので、できる問題から解くように心がけましょう。

【社会】

例年通り大問 4～5 問、各大問に小問(問い)が 10 問前後あり、図・表・写真などの資料が含まれる。各分野については以下の通り。

・地理分野

〔学特入試〕

- ・地形図に関する問題が出ます。(九州地方に絡めて学習しておくが良いでしょう。)
- ・ヨーロッパ州に関する自然環境・産業・課題などを調べておくが良いでしょう。

〔一般入試〕

- ・地形図に関する問題が出ます。(関東地方に絡めて学習をしておくが良いでしょう。)
- ・オセアニア州に関する自然環境・産業・文化などを調べておくが良いでしょう。

・歴史分野

〔学特入試〕

- ・19 世紀後半から 20 世紀にかけての日本と外国とのかかわりと、各国の様子についての問題を出題します。人物・戦争・条約をよく学習しておくが良いでしょう。教科書を中心に概要や年代をつかんでおくことをお勧めします。

〔一般入試〕

- ・古代から近代にかけての、日本と世界との関わり(外交史)について出題します。外交に関わる人物・文化・政策・場所等の基本的な事項を出題しますので、年表や地図を活用して復習しておいて下さい。

・公民分野

〔学特入試〕

- ・政治分野では、参議院議員選挙があったことを受けて国政についての問題を出題します。憲法の内容や数字など細かいことを聞きますのでよく教科書を読むことをお勧めします。経済分野では、日本の税制について出題します。こちらも、制度について細かいことを聞きますので、表やグラフ、数値などを確認すると良いでしょう。

〔一般入試〕

- ・政治分野では、時事ニュースを絡めて選挙関連のものを出題する予定です。参議院選挙と東京都知事選挙がありましたので、それぞれ仕組みなどをよく復習しておくが良いでしょう。経済分野では、100 年前の 1917 年ロシア革命から社会主義の国が誕生したことにならみ、経済システムや制度などを理解しておきましょう。

【理科】

実験や観察の問題が多く出題される。教科書に掲載された実験や観察はよく復習をしておくこと。

- ・物理分野 音・光・力・電気・運動に関する分野で、この分野は計算を必要とする問題が多く出題される。また、実験や観察から得た情報を読み取ったり、考えたりする問題も出題されるので、教科書にある実験や観察、その中で使用する機器の特徴、導き出された定理や法則をよく理解しておくこと。定理や法則の名前だけではなく、その内容まで十分に学習しておく。
- ・化学分野 状態変化、化学変化、原子や分子、物質の性質に関する分野で、教科書にある実験や観察の操作や結果、注意点などを理解しておく。また、実験や観察でわかる物質の性質、教科

書に載っている原子や分子の元素記号や化学式、そして、化学反応を表す化学反応式も書けるようにしておくこと。

- ・生物分野 植物や動物やヒトのからだ、生物同士のつながりといった、いわゆる生命体に関する分野で、それぞれの動植物全体を大きくとらえての共通した特徴、異なる特徴を整理し、系統的に理解しておく。また、動植物の特徴ある部分の働きや、その必要性についても学習する。また、よく使われる観察や実験、試薬や溶液についても、十分に復習しておくこと。
- ・地学分野 地層・火山・地震、気象、天文に関する問題で、最近話題になった事象や発生した現象についての問題が出題されることが多い。また計算問題が出題されることもある。

これが追加された。 (なお、学特入試に関しては、天文分野は地球の自転・公転に関する内容までとし、太陽系、宇宙に関する内容は出題しません。)

全体的に教科書を中心とし、単なる丸暗記ではなく、自分の言葉で説明できるよう準備することが必要である。

【英語】

◇学業特別奨学生入試（英語科・普通科共通問題。一部別問題を含む。リスニングは共通問題）

時間配分 Listening → 約 10 分（放送は 1 回のみ）

Reading → 約 40 分

配点 Listening → 20%

Reading → 80%

問題形式 Reading（共通）・文法問題・会話文（選択形式）・長文問題 1 題（物語文）

（別問題・普通科） ・文法語法問題

（別問題・英語科） ・語の定義（最初の 1 語あり）・文整序問題

◇一般入試（英語科・普通科共通問題。一部別問題を含む。リスニングは共通問題）

時間配分 Listening → 約 10 分（放送は 1 回のみ）

Reading → 約 40 分

配点 Listening → 20%

Reading → 80%

問題形式 Reading（共通）・文法問題・会話文（選択形式）・長文問題 1 題（物語文）

（別問題・普通科） ・文整序問題・語彙問題

（別問題・英語科） ・語の定義（最初の 1 語あり）・語彙問題（一般常識的知識も必要）

学特入試・一般入試ともに中学校の学習内容に加えて、発展的内容も問われます。中学の教科書の基本的事項はもちろんですが、応用力も身につけておいてください。長文問題では内容把握を中心に出题されます。長文読解に必要な語彙力もつけておきましょう。